

期待にこたえる丹南病院

玄関を入るとすぐに対応の職員が親切に受け答え。ピンクの看護服のかいがいしい動き。丹南病院は今、地域の中核医療機関としての活躍を始め、訪れる患者数も増加の一途をたどっています。

病院の始まりは明治31年で、傷病兵士を癒す陸軍病院でした。今では独りそびえ立つ老松だけが当時を物語っています。



公立丹南病院正面玄関

平成12年2月、鯖江市、武生市、今立町などの十市町村が組合を作り、国から引き継ぎました。

病室も明るく広くなり、MRIやCT、 ангиオ（血管X線撮影）機、人口透析装置15台などの新鋭医療機器も導入され、約33億円が投入されました。

年間の延べ患者数は入院と外来で約18万3千人で、前年より22%増えています。内科が約6万5千人、次に整形外科3万3千人、耳鼻咽喉科1万7千人の順です。

24時間の救急医療体制が完備し、昨年度の処理数は6839件に達し、高齢者などに対する機能訓練体制も整い、通所リハビリセンターの利用者数も約2千3百人となりました。

年間の医療収入は約25億6千万円で前年より6億9千万円の増収となり、国庫補助も2億4千万円が導入されました。今後も経営収支改善に向けての努力が期待されています。